

Q. 町民アンケートに見る課題解決方策を問う

A. 雇用情勢の改善は困難であるが努力は惜しまない

Q. 来年度予算編成の考えは

A. 職員とともに英知を結集し取り組む



西内 陽美議員

町民アンケートに見る課題解決方策は

質問 3月に実施された町民

アンケートでは、町に特に力を入れて取り組んで欲しいとする施策に、除排雪対策、雇用対策、農産物のブランド化支援、農業者の育成や商店街の活性化の支援など、経済対策が上位に上がってきている。つまり町民は、医療、介護の充実を求めながらも、経済の活性化、産業振興を望んでおり、それは、本町が抱える人口減少問題や少子高齢化の現実を憂いているのだと思う。若い世代や働く世代の層を厚くする施策が必要ではないか。

町長 行政評価委員会の評価意見やアンケート結果は真摯

に受け止めている。ただ、雇用問題は企業誘致のための条例を改正した経緯もあるが厳しい状況。北海道でも札幌以外は回復の兆しが見えてこないのが実情ではないか。雇用情勢を一挙に解決の方策に導くのは難しく、アンケート結果をすぐに町政に反映させることは厳しいが、努力はしなければならぬと思っている。雇用、介護、福祉、医療、すべて重要であるが、特に雇用に関しては働く場所の確保が必要だと考えている。生産人口をいかに増やしていくかが重要な課題であり、それがハランスの良い人口形態に繋がっていくと考えている。今日の基盤を作った先人に感謝しつつ、これら課題を念頭において町政にあたっていく。

来年度予算編成への考えは

質問 26年度は、植田町長2

期目の仕上げの年である。また、第5次総合計画が策定されてから約2年が経過し、様々な事業効果への考察も加えられる頃と考える。12月は各課からの予算への要望が示

される時期であり、現在の状況での予算編成に対する考えや方向性を伺う。

町長 来年は任期の最終年度であり、町民の皆様を支えて頂きながら今日に至った。この間のご支援ご協力に対し厚く感謝と御礼を申し上げます。町政は第5次総合計画において町の将来像として「豊かな自然、あふれる笑顔、みんなで創る、いきいき未来」を掲げ、財政状況を勘案しながら、武道場の建設、農業公社の立上げ、農業基盤の整備、街路灯や防犯灯のLED化など様々な事業を実施した。

就任後、社会情勢も変化してきたが、一番の課題は人口減少、少子高齢化であると考える。町が単独で解決出来る事ではないが、人口減少は地域づくり、地域経済に大きな影響を及ぼすので、持続可能なまちづくりを目指し、来年度は三つの柱を重点に置いた。一つに「安全で安心なまちづくり」である。全国各地で異常気象や予測できない災害が頻発する中、暮らしの安全確保を図り、地域住民が支えあつ地域づくりに努める。

一つに「魅力と活力あふれるまちづくり」である。来一年間、本町の応援大使である日本ハムファイターズの二人の選手に、本町の魅力や情報の発信についてお手伝いを頂く。良質な生活環境の基盤づくり、地域を支える商工業の振興、観光振興計画に沿った町の魅力を生かした観光づくりを進める。

一つに「自然と共生する持続可能なまちづくり」である。自然環境の保全と循環型社会の形成を目指し、素晴らしい自然環境を次世代へ引き継いでいくため、温室効果ガスの吸収機能が高い森林の再生を推進する。

26年は、まちづくりの評価を受ける年として、予算においても限られた財源の中で、職員とともに英知を結集して取り組んでいく。

企業振興促進条例について

町内に新設、増設した企業に対し優遇措置を講じ、企業誘致や雇用の拡大を図ることを目的とする。25年9月町議会にて条例を改正し、支援要件を緩和した。